

第五十九話 令和元年 八月八日

【慶応】

武士の世の晩鐘が鳴り響いた四年間であった。

武士モノを著わす拙者にとって元号【慶応】 はラストページ。

数多の高名歴史家、作家、劇作家らによって語り尽くされた感がある【慶応】。

さもない武士モノ作家がファミリーストーリーのファーストページ【慶応】を語ってみる。

慶応四年4月11日の江戸開城。

その数日前のこと。御金蔵にあった11万両が密かに運び出される。

西丸下の撤兵屯所に移したあと、数百の味噌樽に詰め替え海路で駿河に運ぶ。使用目的はなかった。ただ憎き薩長に奪われたくなかった。

実行犯は11万両が入った味噌樽を眺め、膝を打った。

「そうだ、陸軍学校をつくらう」

徳川将軍家は駿河へ封鎖。徳川藩に。400万石から70万石。薩摩藩にも一歩及ばない一大名に転落。

慶応四年七月下旬。旧幕府陸軍兵士の駿河での土着&自活方針と陸軍学校の設立 を宣した「陸軍解兵御仕方書」が公布。

この「陸軍解兵御仕方書」の中心人物が11万両を持ち出した実行犯、安部潜 {せん}。陸軍頭として沼津兵学校を設立にまい進する。

「沼津兵学校」、 ウィキペディアなどで検索すれば概要はわかるわけで、ウィキペディアには書かれてないことを記す。

そこに杉山家初代Y染色体のご先祖さんがいるからである。

沼津水野藩五万石、藩士の数は580戸。3000戸の沼津割付の旧幕臣を取容するにはまったくもって足りない。

沼津兵学校の教授・生徒（600名ほど）も例外ではない。校長の西 周さ

えも三枚橋の名主の家に。他は地主百姓、大店に居候。沼津兵学校へ入学した丸に三つ柏の家紋のY染色体ご先祖さん、とある町家へ居候となる。

故今井正監督処女作「沼津兵学校」（昭和14年）。箱館の榎本軍に身を投じた父親が戦死したことを知った沼津兵学校生、自身も箱館榎本軍に身を投じようとするが仲間に止められる。

実際に箱館榎本軍に参戦する教授方、生徒方も多くいた。幕臣の自尊がそうさせた。

旧幕臣が東京に残った父親に宛てた手紙。明治4年4月付け。

「ただいま沼津に結集したような人材がもっと早く幕府で抜擢されていたら瓦解はなかったであろうと人々が口にしている」

戊辰戦争の朝敵の藩はもちろん、敵方だった官軍各藩（薩摩・長州・柳川）の秀才どもも集った。新政府からも熱い視線。大村益次郎、山県有朋も視察に訪れた。

明治政府、“吸収合併”を策する。明治5年、沼津兵学校廃校。

明治10年、西南戦争おこる。沼津に土着することとなったご先祖さん、幼児を残し、薩摩軍に身を投じた。

オシマイ。